

会派の意見

6月定例会を振り返って

市民クラブ

桂浜荘関連補正予算

市長専決処分の是非

この6月議会では、予算議案4件、条例議案13件、その他議案9件が提出されましたが、その他議案9件中、市長専決処分の承認議案が5件含まれていました。

市長専決処分とは、本来議会の議決が必要な事件を緊急な場合など例外的に議会の招集を経ずに首長が議会に代わり意思決定をすることです。昨年からのコロナ禍で、市民に対する緊急を要する予算執行のため、議会は何度かこの市長専決処分を承認した経過があります。

ただし、今議会では桂浜荘に関する市長専決に対し、議会軽視と

の批判がありました。執行部にはまず、今後の桂浜荘の将来像を示す必要と責任があります。

日本共産党

桂浜荘についての市長専決など、議会の役割を損なう動きに反対！

市政の重要課題である桂浜荘について、議会も開かず市長専決で予算措置をしたことは問題であり、専決処分承認議案に反対しました。

会派で提出した意見書議案のうち、LGBT法の早期成立を求める意見書が可決されたことは画期的です。一方で、東京オリ・パラの中止を求める意見書は否決されました。命よりも五輪を優先することは許されません。

今議会でも、行政のコロナ対応への配慮として個人質問の人数調整が行われました。私たちは、議会質問は市民の声を市政に反映する重要な機会であり、質問権は保障されるべきであると考えます。

自由民主党・中道の会

本議会の個人質問には、福島明議員、平田文彦議員が登壇しました。

福島議員は、市長の政治姿勢、とさでん交通の在り方や所有者不明土地問題等について、また平田

議員は防災対策や環境行政、青少年教育行政等に言及し、市長、執行部より詳細な答弁がされました。

市民の皆さんの注目も高かった桂浜荘に対する市長専決処分においては、所管する委員会においても多くの議論が交わされ、採決では可決されたものの、議員の賛否も分かれ、市長ならびに執行部に対しては厳しい姿勢を示す形となりました。9月以降、休業となりますが、今後の展開においても厳正に注視してまいります。

公明党

コロナ対応を軸とする議論活発

本市における高齢者ワクチン接種が混乱を来した状況を憂いた公明党は、ウィズコロナの時代を生き抜くためにも、集団免疫を獲得することが必要だとの視点でコロナ対応についてただしました。今議会では、今後の接種や予約がスムーズにできるように常設の集団接種会場の設置と優先接種について明確な考え方を引き出しました。

また、国民宿舎桂浜荘の市長専決処分の承認議案は、指定管理者である「高知市桂浜公園観光開発公社」とは今後の在り方について合意がされていることから、承認はやむを得ないものと判断しました。

新こうち未来

国民宿舎「桂浜荘」の専決議案に反対

6月議会の最大の議案は、桂浜荘に関する市長専決処分議案であった。会派を代表して戸田二郎議員が、「岡崎市長が1億1千万円もの多額の予算と共に、重要議案を議会の審議や議決を経ずに、執行部だけで専決したことは、今後の議会運営にも悪影響となり、看過できない」と反対討論を行った。

山嶽会

市政課題を掘り下げて質問・提案

高橋裕忠議員が質問に立ち、「民生委員の定数割れ」や「行政のデジタル化」について質問・提案をいたしました。今後もお困りの方の視点から行政を見つめ直し、議会活動を行ってまいります。

清和クラブ

ワクチン接種の加速化を

海治甲太郎議員が市民の命と暮らしを取り戻すため、本市が集団接種や職域接種に柔軟に主体的に取り組むことを求めた。安心・安全な東京五輪・パラリンピックの開催と本県選手の応援を共有した。